

長引く咳

朝霞台中央総合病院
内科・呼吸器内科部長 水野耕介医師

呼吸器内科をはじめ受診されるかたの症状で圧倒的に多いのが「なかなか咳がなおらない」のように思います。すでにどこかを受診しておられるかたも多くそれでもよくなるので来院されるようです。咳の原因の診断と治療は難しいのでしょうか。



咳の原因

咳がなおらない時誰の頭にもよぎるのがひょっとして結核？肺がん？だと思います。肺結核・肺がん・そして肺炎は陰影が出現しますから胸部レントゲンではっきりしなくてもCTまで撮影すればまず診断が可能です。咳が長引いてご本人ばかりでなく医者までも悩ますのは写真に写らない疾患によって咳が出ている場合です。

画像検査で異常が出ない病気

最近では医学界がメディアを使っての啓蒙活動をさかんにおこなっているためかCOPD(慢性閉塞性肺疾患。いわゆる肺気腫。)や喘息で咳が続くことが知られるようになってきました。長引く咳をきたす病気のうち画像検査で異常が認められないものにはこのほかに感染後咳嗽・アトピー咳嗽・副鼻腔気管支症候群・後鼻漏・胃食道逆流症があります。

COPD

以前は肺気腫という病名で広く知られていました。喫煙によって気管支の肺に近い部分が脆弱になるため息を吐く時に気管支がぺたっとつぶれてしまい息が思い切って吐けなくなる病気です。だいたいの場合痰や動いた時の呼吸苦を伴います。肺活量や1秒間で吐ききれの息の量(1秒量)などを調べる呼吸機能検査で診断できます。

気管支喘息

気管支の壁にアレルギー性の炎症が生ずることにより気管支の内腔に可逆性のある狭窄が生じる病気です。夜間特に明け方に息を吐く時にヒューヒューという音(これを喘鳴といいます。)を伴う呼吸苦が出現します。温度差のある場所に入ったりした時や梅雨や台風の影響で症状が出る場合があります。喘鳴を伴う呼吸苦が気管支を拡げる薬で良くなれば気管支喘息の可能性が高いといえます。以前は気管支を拡げるのみぐすり主流でしたが現在は吸入のステロイド剤が第一選択の治療になっています。吸入ステロイドが普及するようになってから重症の喘息がずいぶん減ってきました。

咳喘息

気管支にアレルギーが関与した異常がおき気管支が収縮(ここまでは気管支喘息と同じです。)して咳が出るのですが喘鳴を伴いません。気管支喘息の前段階の状態といわれています。以前は呼吸器内科医くらいしか使わなかった病名ですが最近では患者さんが「いろいろ受診してもよくなるので咳喘息かと思ひまして。」などと仰るようになってきました。吸入ステロイドや気管支拡張剤(気管支喘息と同じ治療)でなおります。

再び咳喘息・アトピー咳嗽・感染後咳嗽について

この3疾患を受診時に鑑別することは現実にはなかなか困難です。咳喘息とアトピー咳嗽も感染をおこした後に出現することがあるからです。検査で診断がつく疾患ではありませんし感染後咳嗽が自然治癒するといわれていても咳がなおらないため受診するわけですから結局抗ヒスタミン剤や吸入ステロイドを処方することになるのも理由のひとつです。疾患によって効く薬が違うので診断にはかなり詳しい問診が必要になります。

鼻や胃が悪くても

副鼻腔炎とは一般的に蓄膿症とよばれている病気ですが黄色い痰を伴う場合があり副鼻腔気管支症候群とよばれています。副鼻腔炎でなくてもアレルギー性鼻炎などで鼻汁がのどに垂れこむ(これを後鼻漏といいます。)ことにより咳が続くことがあります。胃液が逆流する胃食道逆流症でも咳が出る場合があります。

最後に

咳が続いたらまずはレントゲンを撮ってください。CTまでおこなえば初期の肺がんや結核でも見逃されることはまずありません。画像に写らない咳の診断は簡単ではありませんが治療薬はどこにもおいてある薬ばかりです。よくなる時ときは呼吸器内科医にかかってみてください。

アトピー咳嗽

アレルギーの素因が関与しているといわれていることは咳喘息と同様ですが気管支の収縮はおきないので気管支拡張剤が無効であるため両者を区別することができます。蕁麻疹やアレルギー性鼻炎の時に処方される抗ヒスタミン薬や吸入ステロイド剤でなおります。

感染後咳嗽

「風邪をひいた後咳だけが残ってとれない、あまり長いので心配。」という御経験はないでしょうか。肺炎・気管支炎・風邪などがなおったはずなのに咳だけが減りもせず、そしてあまり減りもせず続きます。実際はほんの少しずつはよくなっていることが多いようです。特効薬はありませんが自然治癒するとされています。